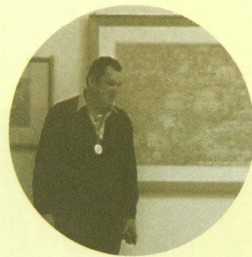
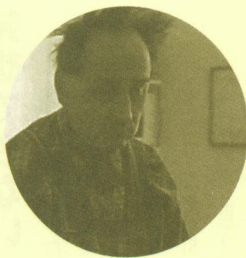


五十嵐久美子監督作品

遠足

Der Ausflug



病める天才たちの光と闇

ウィーン郊外グギング村の神経科病院内にある〈芸術家の家〉
そこで暮らす天才画家たちは〈家〉から出かけることを
子どものように「遠足=Der Ausflug」と呼んでいた…

1999年／日本／カラー／35mm／86分

監督・編集／五十嵐久美子
撮影／山崎 裕 録音／吉田一明
音楽／近藤等則 宣伝美術／川上 修
プロダクションマネージャー／塚本陽子
プロデューサー／橋本佳子・長窪正寛
現像／イマジカ 協力／オーストリア航空
製作／デジタルメディアエンタテインメント
ドキュメンタリー・ジャパン



遠足

Der Ausflug

子どもの落書きのような壁画で彩られた〈芸術家の家〉の住人を会ったとたんに好きになった。
お互いに別の宇宙をもつ別の存在として認め合っている静かな男たち。
できるかどうかかわからないが、
私は最初に彼らに感じた「孤独な幸福」を描きたかった。

監督・五十嵐久美子

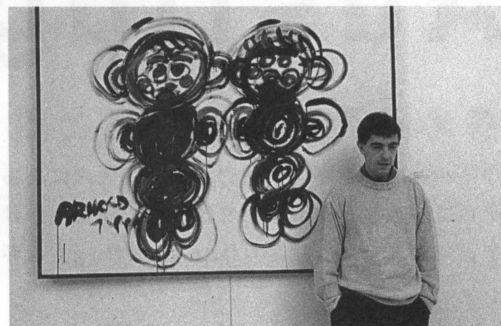


日本では発想できない〈幸福な場所〉◎日比野克彦

が一生懸命描いた絵をお金で売るなんてことはできません」と売買を拒否したことがあった。社会と関わるシステムをその人の能力に合わせてサポートすることこそが相互理解になっていくものなのだと思う。

美術というメディアにおいてハンディキャップとかは、へんな言いまわしがハンディにはならない。なぜなら同じ考え方、同じ表現は必要ないからで、逆に精神的な健常者でも自分の中で他人と異なった(異常な)ところを見つけてなくてはいけないほどのだから。この映画は「福祉というちよつとこそばゆい言葉の本来の意味」とともに、「社会における美術の機能」も見た人に伝えてくれるものである。

私がこの映画の舞台になっているウィーン郊外グギング村の〈芸術家の家〉の実態を知ったのは3年ほど前である。映画の映像上の美しさもあるのだが、一番の驚きはこの施設の運営方針。この家に住む精神障害をもったアーティストたちを一人前に経済的に自立させているところである。この点は日本において最も難しいところで、福祉という言葉と相互理解という言葉の境目があいまいで「ハンディキャップをもっているのがんばったね」という言葉が相互理解に成り得ていない。しかし芸術家の家では作品の売買を作家の経済的な収入源とし、彼らを社会の一員として送り出している。以前日本でこのようなアーティストの展覧会が行なわれた時、その施設の責任者は「彼ら

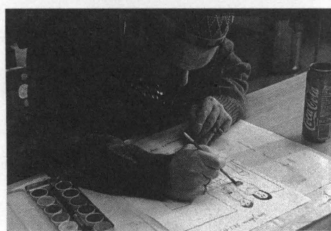


アウトサイダー・アートの一大聖地〈芸術家の家〉

美術教育を受けない子どもたちや精神を病んだ人たちによって生み出される作品は「アウトサイダー・アート」と呼ばれ、ヨーロッパでは1920年代からその芸術的価値が認められてきた。この映画の舞台となる〈芸術家の家〉は、ウィーン郊外グギング村の神経科病院の敷地にある。病院の医師であったナブラディル博士が芸術的才能をもつ患者たちのために1981年に創設。以来グギングのアーティストたちの作品は欧米各地の展覧会で注目され、いまや〈芸術家の家〉はアウトサイダー・アートの一大聖地となっている。

老いた肉体に少年の心をもつ、天才たちの不合理的な遠足

アーティストたちは〈芸術家の家〉を出て、どこにも行く。〈家〉から出かけることを、彼らは子どもがいうように「遠足=Der Ausflug」と呼んでいる。年に2回だけ恋人とのデートにでかける男は、彼女との恋物語を描く。毎週1回亡き母の墓参りに行く男は、少女のような母の姿を描く。毎日3回当たったことのない宝くじを買いに行く男は…。必要な世間の情報や関係の一切を断って、自己の内奥に独自の世界を創作している男たち。老いた肉体に少年の心をもつ天才たちがかいま見せる光と闇は、私たちに「正常」とは、さらには「幸福」とは何かを問いかける。



1999年/日本/カラー/35mm/86分

監督・編集/五十嵐久美子 (1998年放送ウーマン賞・芸術祭新人賞)
撮影/山崎 裕 (映画「ワンダフルライフ」監督・是枝裕和 他)
音楽/近藤等則 (映画「てなもんやコネクション」監督・山本政志 他)

録音/吉田一明 宣伝美術/川上 修
プロダクションマネージャー/塚本陽子
プロデューサー/橋本佳子・長塚正寛
現像/イマジカ 協力/オーストリア航空
製作/デジタルメディアエンタテインメント
ドキュメンタリー・ジャパン

ちょっとしたくさや行動、
発言、後ろ姿。監督のま
なざしが見た彼らは、人
間として何だかとても可
愛らしくて抱きしめたく
なってしまう存在だ。
[SWITCH] 12月号
井上麻子

5月26日(土)～6月8日(金)
“心温まる”モーニングロードショー

連日 AM11:00より1回上映(終12:26)

特別鑑賞券1400円好評発売中

※劇場窓口、チケットぴあ、阪急・阪神他各プレイガイドで好評前売中!!
当日/一般1700円、学生1400円、高・中・小・シニア1000円

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩2分

シネ・ヌーヴォ

TEL.06-6582-1416
〈シネ・ヌーヴォのホームページ〉アドレス
http://terra.zone.ne.jp/cinenouveau/

